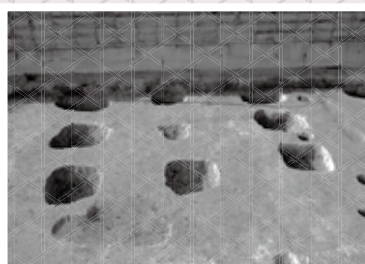


古代を解明する丹南遺跡の発掘

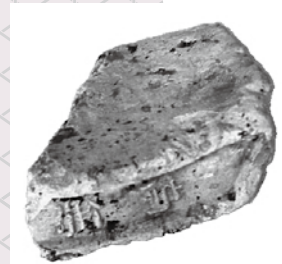
西田 孝司(松原市文化財保護審議会)



▲飛鳥時代の役所(屋敷)遺構のクラ跡(右)と井戸跡から出土した土師器の甕 介護福祉施設建設地



▲「来迎寺」と刻まれた軒丸瓦
いずれも松原市教育委員会提供



▲小字「大和寺」近くで見つかった「南無□□□□」の軒平瓦

古竹内街道が丹南を通過か
飛鳥時代の役所(屋敷)遺構

日本遺産となった〆一四〇〇年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」(竹内街道・横大路(大道))の構成文化財の中に丹南遺跡が認定されたことは前号で紹介しました。丹南四丁目の今池前で見つかった河内鋳物師の工房跡が評価されたのです。

河内鋳物師工房は室町時代の十五世紀ごろでしたが、同じく丹南四丁目では、竹内街道敷設後と思われる飛鳥時代の大きな建物跡も見つかっています。古代の本地域を知るうえで、大変重要な発見となったのです。

現在、竹内街道は岡五丁目の松原南コミュニティセンター前や立部五丁目の緑の一里塚前を通っています。その緑の一里塚と竹内街道をはさんだ北側の立部遺跡でも平安時代末から鎌倉時代後半にかけての河内鋳物師の工房が見つかりました(「歴史ウォーク」241)。その際、道路遺構が検出されませんでしたので、中世は現道ではなかったようです。ですから、古竹内街道ともいべき古代の官道は、南側を走る丹南北端に接する中央環状線あたりではないかとも考えられています。

もっとも、現在の街道に寛政九年(一七九七)五月の道標が二基見られることから、江戸時代は現ルートであることに間違いなんでしょう。

この古竹内街道の南側、丹南四丁目の丹南公園の東方、堺市美原区丹上に接する地に平成十四年(二〇〇二)、介護福祉施設が建設されることになりました。近くでは、飛鳥時代から奈良時代にかけての交差する道路跡や建物跡のほか、中世の寺跡が見つかりました。

寺跡は、介護福祉施設南側で、近く小字「大和寺」があり、その発掘調査で鎌倉時代の瓦が多数出土し、「南無□□□□」と刻む軒平瓦のほか、室町時代にかけての瓦も多数出土したのです。江戸時代、元文五年(一七四〇)四月の「丹南村明細帳」に「大和寺」という寺があったが、今は無いと記されています。

「南無」の名号から浄土系の寺が今の丹南四丁目にあったようです。推測をすれば、前号で述べた河内鋳物師工房で仏具を製作していたので、「大和寺」の什物だったかも知れません。もちろん、来迎寺(融通念佛宗)の寺名を刻んだ中世後半の軒丸瓦も現来迎寺東側で出土していますので、来迎寺にも仏具を供給していた可能性もあります。

さて、こうした遺跡地でしたので松原市教育委員会では建設地の発掘調査を行ったのです。そうすると、今から一三〇〇年ほど前の飛鳥時代の掘立柱建物群跡や井戸跡が発見されました。松原市教育委員会「たじひのだより」No.2(平成十五年)より、まとめてみます。

掘立柱建物群跡は、南北に棟を揃え

た大型の建物が十数棟も見つかり、クラ(倉)跡と思われる総柱建物跡も二棟分確認されました。掘立柱建物跡の中には、東西二間(柱間二・一m)、南北三間(柱間二・七m)をはかり、柱穴が一辺一mを超える大きなものもありました。

井戸跡は、掘立柱建物跡に隣接して検出されました。直径は約四m、深さは四m以上の大型の井戸でした。井戸からは、井戸枳材を抜き取ったあと、埋め戻した時に供えられたと考えられる土師器の甕が数点出土しました。ほかにも、炭などと共に多量の土師器・須恵器などの壺や皿、高坏などが見つかりました。このことから、この井戸は、一時に埋め戻さずに土器などを廃棄する穴として利用されていたと思われます。

これらの建物群跡は、整然と棟を揃え、また、その大きさから同地を治めていた有力者の屋敷跡か、丹南郡と丹北郡に分かれる前の丹比郡の役所跡かと推定されます。ここで活動した豪族あるいは役人も古竹内街道を利用して、難波や飛鳥を目ざしたことでしょう。西側を走る中高野街道が設けられるのは、それから数百年後の平安時代のことです。

丹南では、近世に入っても来迎寺に接して大名・高木氏の丹南藩陣屋が置かれ、交通の要衝とも相まって、古代以来の重要地として今に至っているのです。